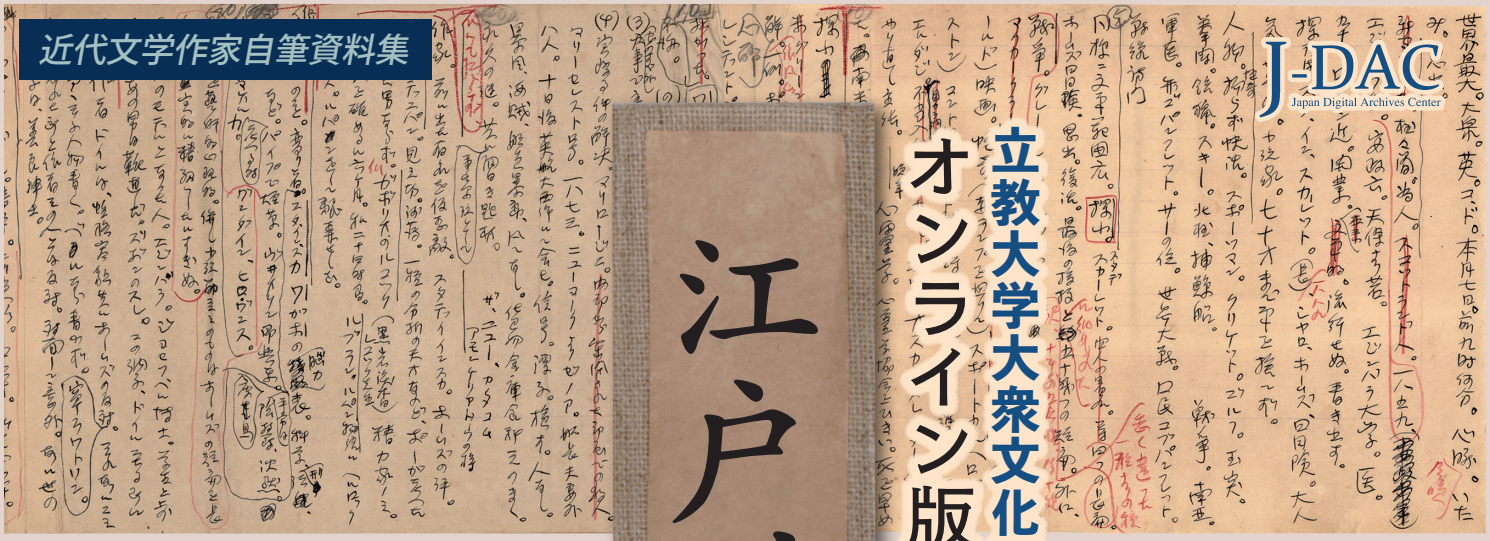
近代文学作家自筆資料集

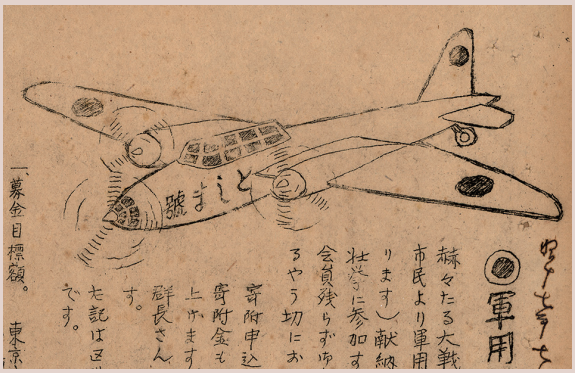
J-DAC
Japan Digital Archives Center

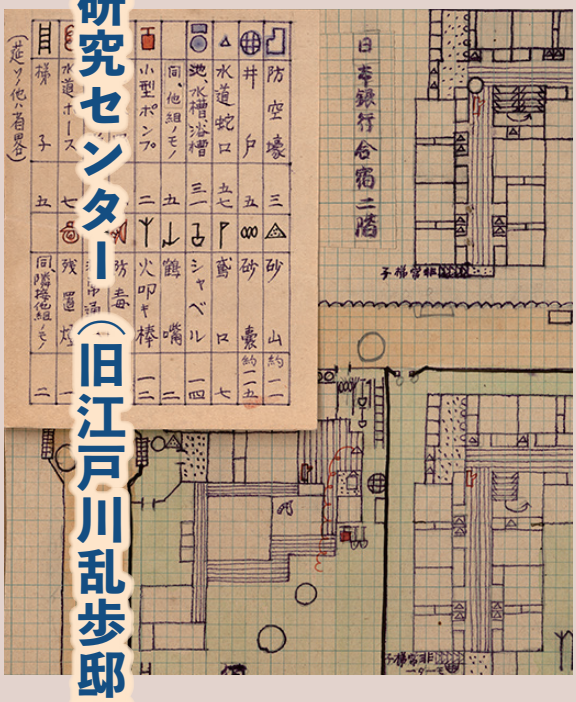
江戸川乱歩『貼雑年譜』

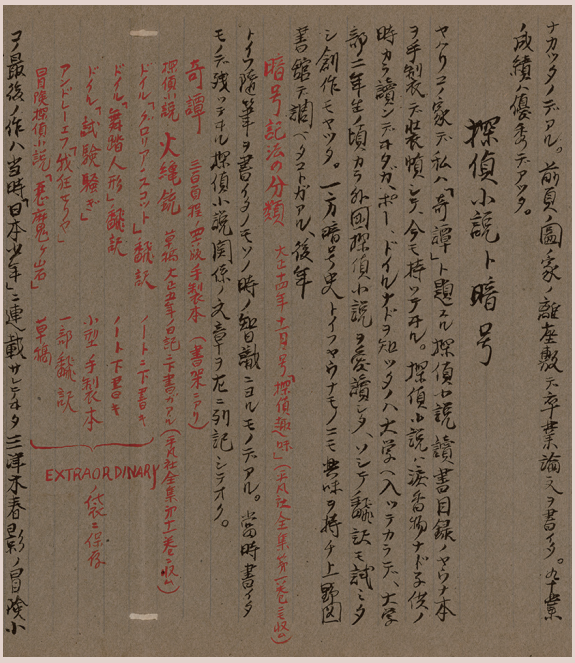
オンライン版

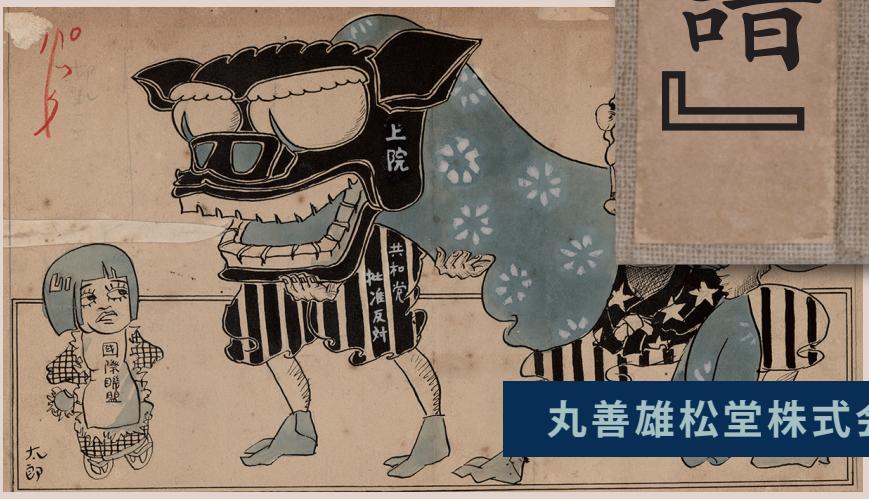
立教大学大衆文化研究センター（旧江戸川乱歩邸）所蔵









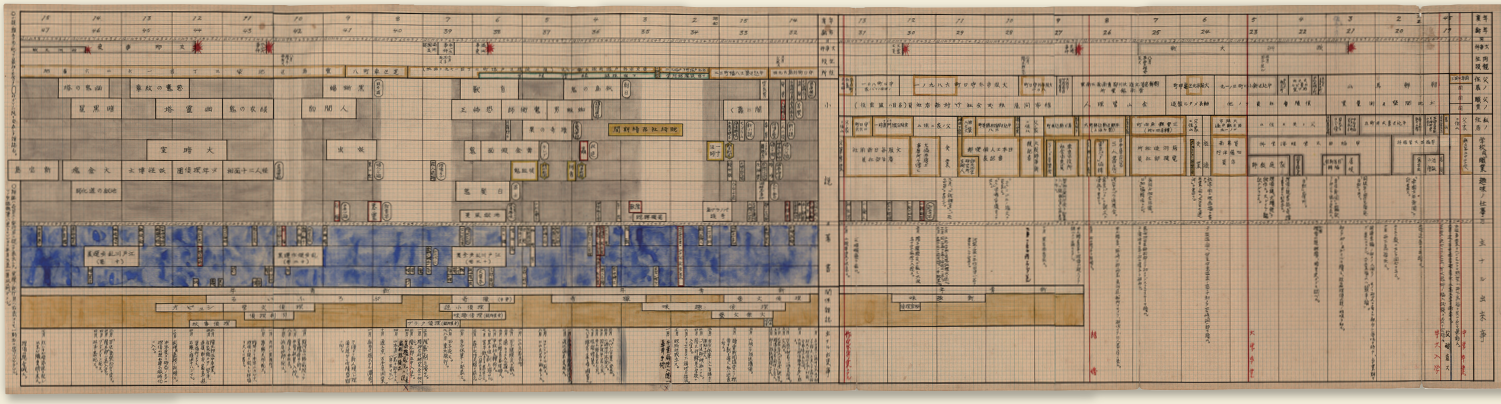


丸善雄松堂株式会社

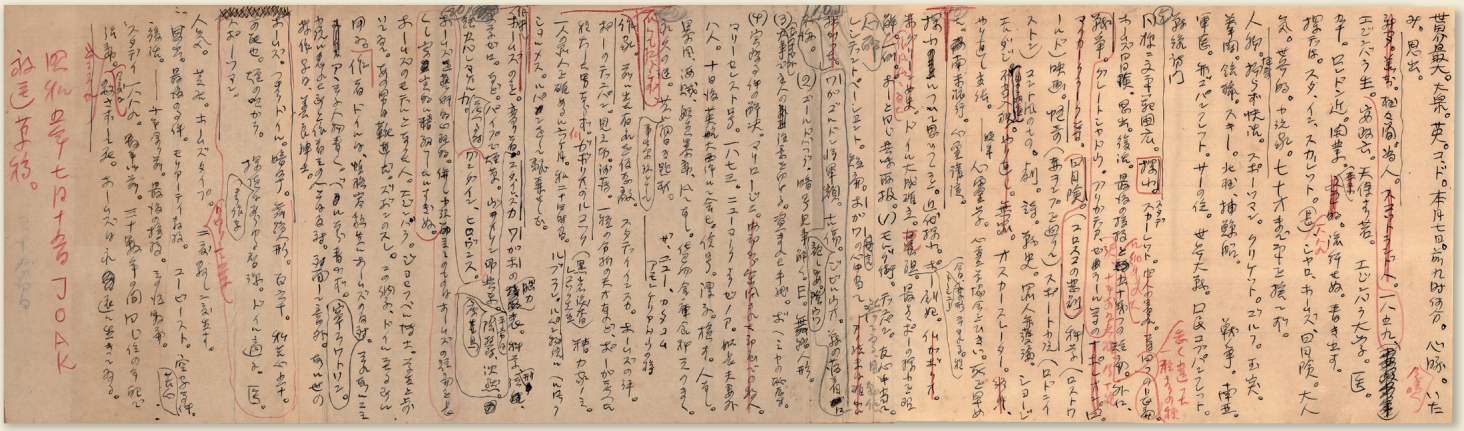
乱歩が生涯にわたって収集、整理、保存した2

——明治～昭和期の文学、文化、社会を照射する一大コレクション

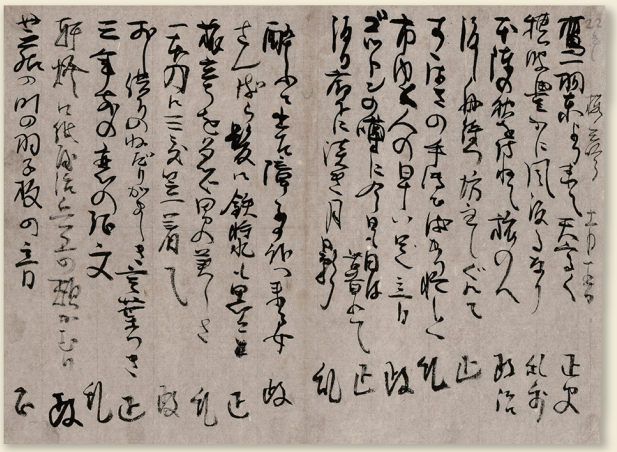
自筆資料



出生ヨリ四十七才マデノ鳥瞰図（昭和16年4月）

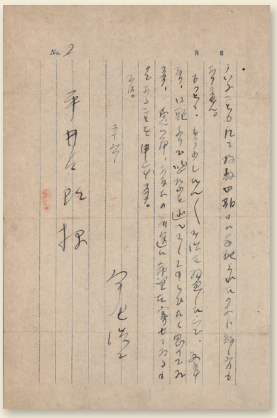


ドイル死す　マイクロフォンの前に置いて見ながら喋った講演草稿（昭和5年7月15日）

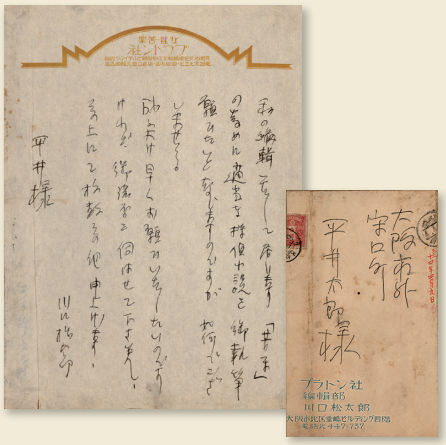


〔横溝正史・江戸川乱歩・西田政治連句〕（昭和22年）

書　簡



宇野浩二書簡
（大正14年1月26日）

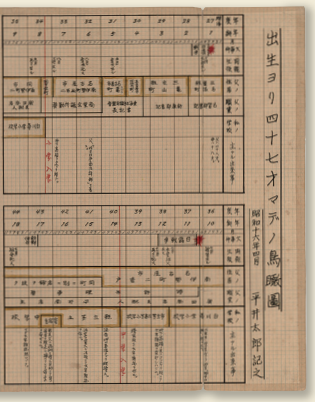


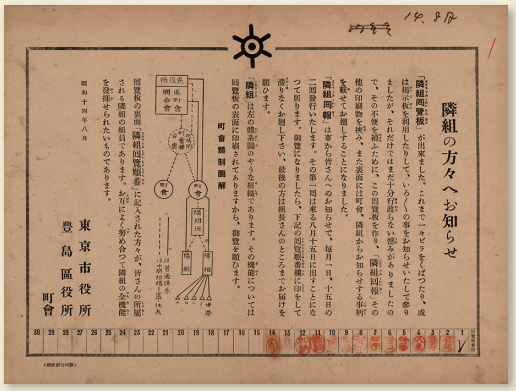
プラトン社 川口松太郎書簡（大正14年4月9日）

2,600点以上に及ぶ原資料に自在にアクセス

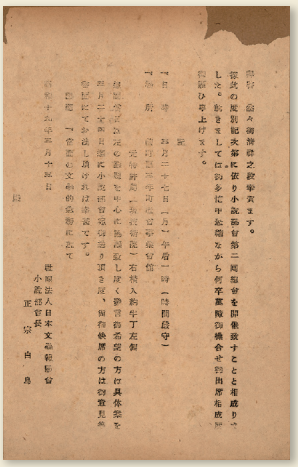
戦時下

乱歩が副会長を務めた町会や隣組の資料のほか、大政翼賛会、日本文学報国会など、戦争と文学を考えるうえで貴重な一次史料も含む。

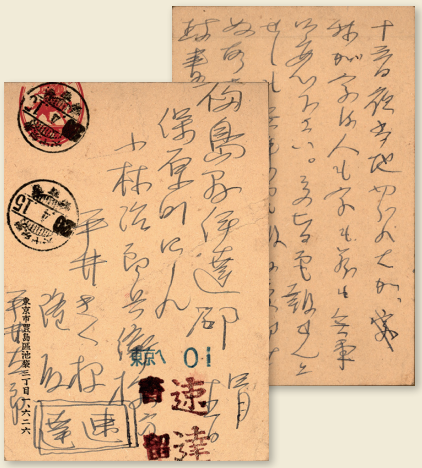




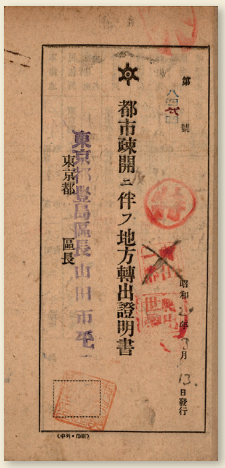
隣組の方々へお知らせ（昭和14年8月）



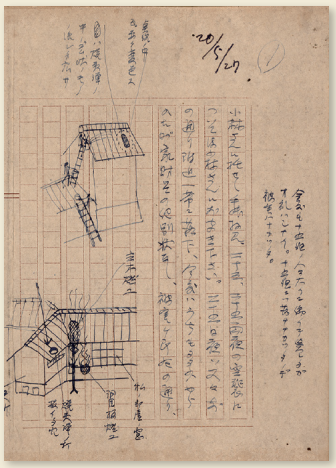
日本文学報国会小説部会決戦総会（昭和19年3月15日）



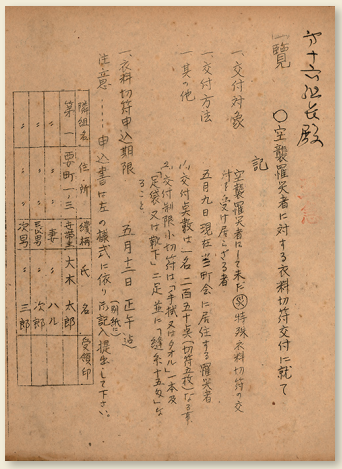
疎開先への葉書
（昭和20年4月15日）



都市疎開ニ伴フ
地方転出証明書
（昭和20年3月13日発行）



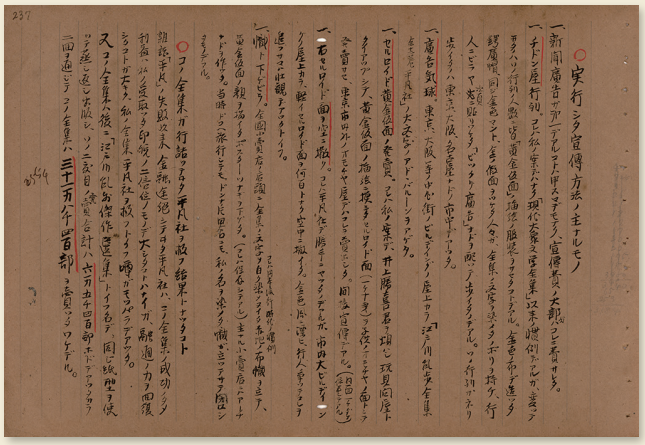
〔焼夷弾被害の状況〕
（昭和20年5月27日）



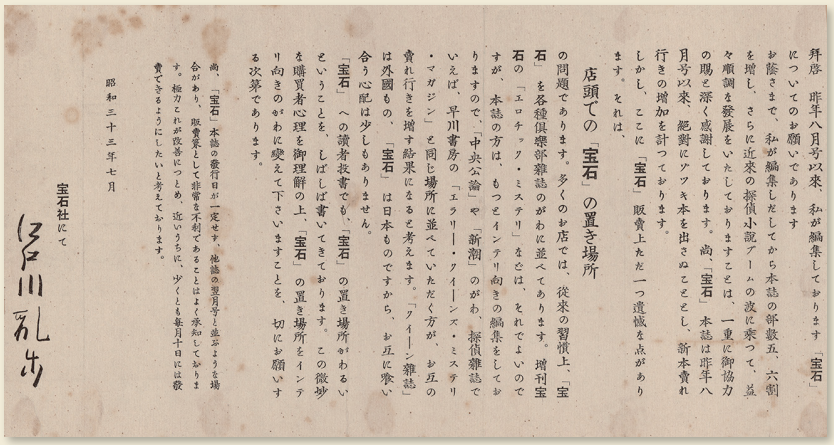
空襲罹災者に対する衣料切符交付に就て（昭和20年5月10日、池袋三丁目町会）

メディア・広告

自身の作品で行った宣伝・広告に関する記録や、書店に配布された通知文等も残されている。



実行シタ宣伝方法ノ主ナルモノ〔昭和6年〕



〔店頭での「宝石」の置き場所についてお願い〕（昭和33年7月）

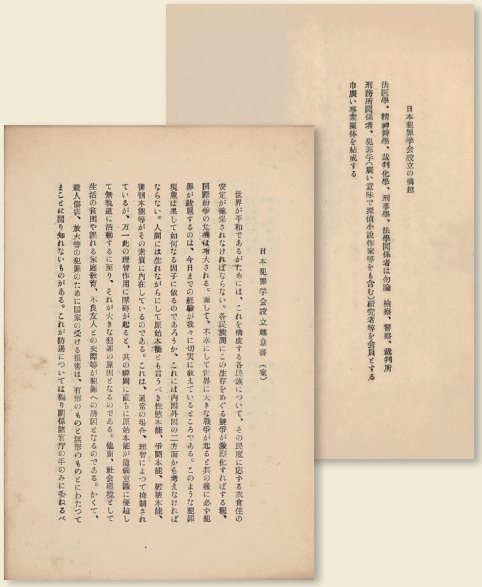
翻訳・海外ミステリ

「一枚の切符」及「黄金仮面」エスペラン訳（昭和5年）

「魔術師」露字新聞に翻訳連載サル（昭和6年5月）

ホームズは生きてゐる（「探偵小説ニュース」No.1、昭和21年9月）

犯罪学



日本犯罪学会設立趣意書（案）（昭和27年1月）

推薦のことば

膨大なビジュアル資料で辿る乱歩とその時代

金城学院大学教授　**小松史生子**

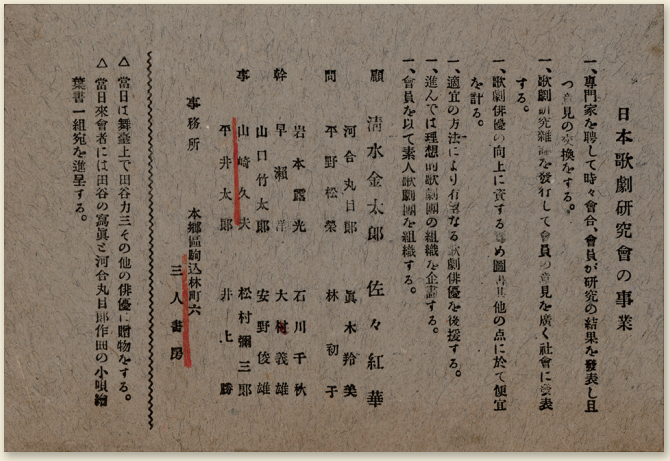
1938（昭和13）年、探偵小説雑誌が軍部の検閲のもとでどんどん廃刊に追い込まれ、探偵小説掲載を柱に都会のメンズマガジンとして認知されていた『新青年』誌面も戦時色に気を遣うようになってきたさなか、1939（昭和14）年3月、ついに江戸川乱歩の「芋虫」が全編削除を命じられる。以後、乱歩の既発表作品は事実上発禁扱いとされ、1942（昭和17）年には既発表作はすべて絶版、新作依頼も皆無といった状況になる。他の探偵小説作家達が失意の底に沈んだり、捕物帳や科学小説に活路を見出したりする中にあって、乱歩は全く独自の方針を採った――それがすなわち、同時代資料のスクラップで綴るヴィジュアル自伝『貼雑年譜』の作成である。もともと収集癖のあった乱歩は、自分の経歴に関連する雑誌・新聞の切り抜き、チケット類、スケッチ、チラシ等、膨大な数の資料を手元にストックしていた。それらを年次順にスクラップブックに貼り付け、驚くべき記憶力を駆使して自筆解説文を添えていったのである。

今日、『貼雑年譜』は、その質と量において探偵小説史の第一級資料としての評価が揺るぎない。探偵小説研究者である当方も、その観点から『貼雑年譜』を貴重な文献として認識している。しかし、そうしたアカデミックな評価の一方で、『貼雑年譜』の本当の面白さは、一人の作家が如何にモノマニアックに自分を見つめ、自分の人生を貪欲なまでにヴィジュアル資料の山で表現しようとしたかという点にあるのも事実だ。実際、文壇デビュー以前の誕生時から幼少年期・思春期の頃の資料まで記憶・収集している乱歩のモノマニアックな姿勢には、モノこそが「自分」であるという密かな信条がうかがえ、21世紀の現代に通じるポストヒューマン的ないしはマニエリスム的な思想の萌芽をさえ感じてしまう。

これまで『貼雑年譜』はその膨大さから全冊復刻は見送られてきた。今回、オンラインという方法で全冊が復刻されるという事態は、探偵小説史との相関性のみに収まらない、江戸川乱歩という巨大な自意識（ヒト）の全貌が、20世紀の一次資料（モノ）と共に臨場感をもって文字通り眼前に甦るという出来事に他ならない。ヒトとモノとが猥雑に共振・共感する、21世紀を予兆するかのようなポストヒューマニスティックな現場（それこそがまさに江戸川乱歩の世界観！）を、『貼雑年譜』全冊オンライン復刻は私達に体感させてくれるに違いない。

映画・演劇

大正期に大ブームとなった「浅草オペラ」から、戦後に映画化・舞台化された作品のポスター、パンフレット、プレスシート、劇評などを収録。



日本歌劇研究會の事業

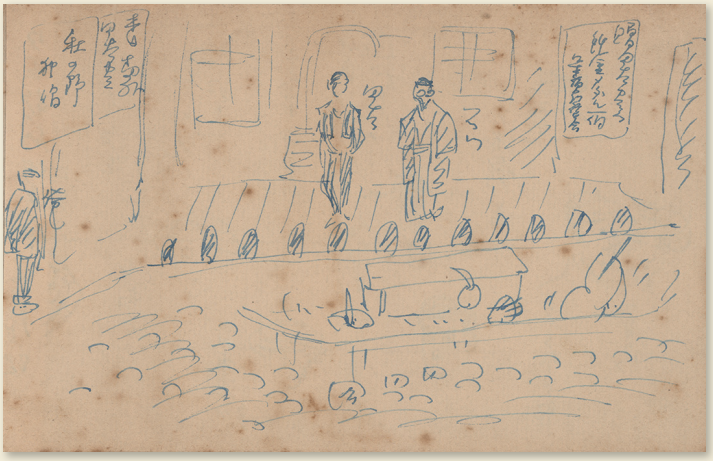
一、專門家を聘して時々會合、會員が研究の結果を發表し且つ意見の交換をする。
一、歌劇研究雜誌を發行して會員の意見を廣く社會に發表する。
一、歌劇俳優の向上に資する爲め圖書其他の点に於て便宜を計る。
一、適宜の方法により有望なる歌劇俳優を後援する。
一、進んでは理想的歌劇團の組織を企畫する。
一、會員を以て素人歌劇團を組織する。

顧問　清水金太郎　佐々紅華
　　河合丸目郎　眞木鈴美
　　平野松榮　林初子

幹事　岩本露光　石川千秋
　　早瀬洋　大槻義雄
　　山口竹太郎　安野俊雄
　　山崎久夫　松村彌三郎
　　平井太郎　井上勝

事務所　本郷區駒込林町六
　　三人書房

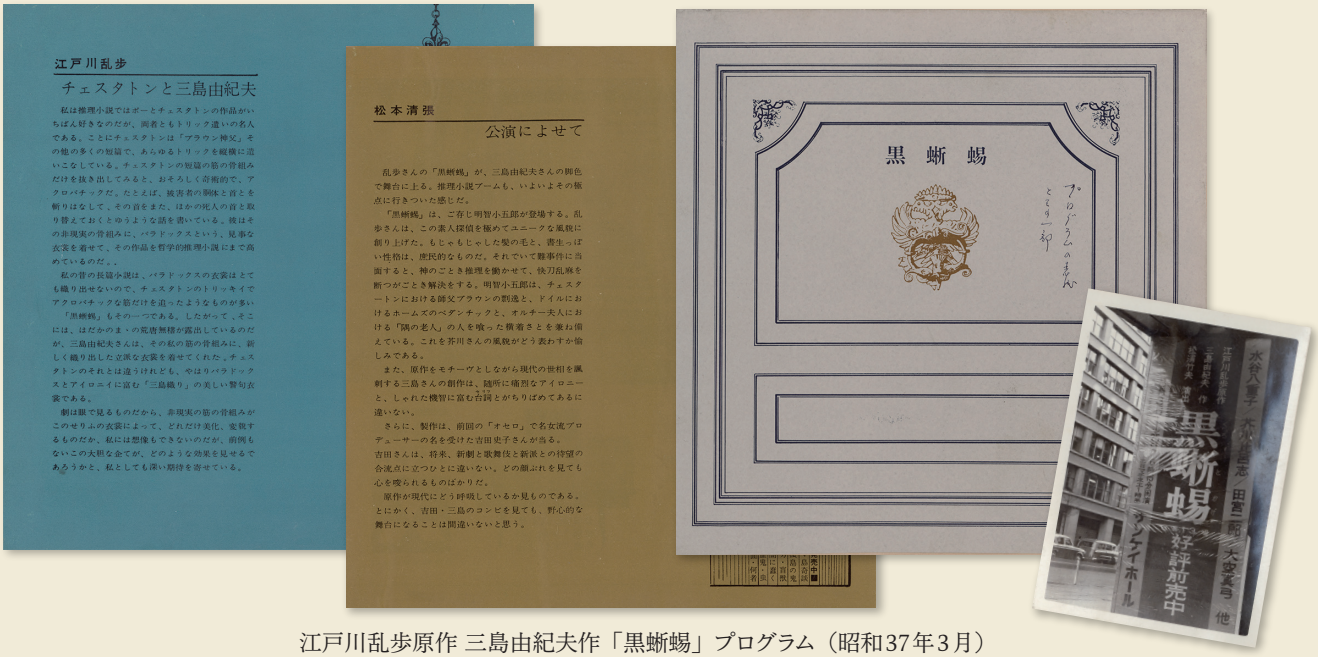
△當日は舞臺上で田谷力三その他の俳優に贈物をする。
△當日來會者には田谷の寫眞と河合丸目郎作曲の小唄繪葉書一組宛を進呈する。



浅草オペラ　日本歌劇研究会資料（大正8年5月）

映画「パレットナイフの殺人」プレスシート（昭和21年10月）

アガサ・クリスティ「アクロイド殺害事件」演劇パンフレット（昭和33年10月）



江戸川乱歩原作 三島由紀夫作「黒蜥蜴」プログラム（昭和37年3月）

近代文学作家自筆資料集

J-DAC
Japan Digital Archives Center

立教大学大衆文化研究センター（旧江戸川乱歩邸）所蔵

オンライン版

江戸川乱歩『貼雑年譜』

解題：立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター
石川巧　金子明雄　尾崎名津子　後藤隆基

価格 ￥180,000（税別）

プラットフォーム：J-DAC　ジャパン デジタル アーカイブズ センター
完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）
<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jpまで>（お申し込みは学術機関に限ります）

江戸川乱歩手製「貼雑年譜（はりまぜねんぷ）」全巻を横断的に検索・閲覧できる学術機関向けデータベース。

「貼雑年譜」は、江戸川乱歩が収集、整理、保存した膨大な資料が貼り付けられたスクラップブックである。乱歩自筆のメモ、日記、原稿類のほか、作家や出版関係者からの書簡、映画・演劇のパンフレットやプレスシート、国内外の新聞雑誌の切り抜きなど、多岐にわたる2,600点以上の原資料が、乱歩のコメント等とともに台紙に貼り付けられている。

本データベースでは、明治27年から昭和39年までの全期間（全９巻）を、詳細な目録を付して収録する。初めて全面公開となる戦中・戦後部分には、乱歩が関わった出版物、映画・演劇、テレビ・ラジオ等の様々な広告宣伝資料や、国内外の探偵作家に関するメモや紹介記事等も丹念に綴じられている。また、日本文学報国会、大政翼賛会や隣組等に関する原資料も多数残されており、戦時を生きた作家の記録としても極めて貴重である。

貼り付けられた個々の資料の検索も可能とし、近代文学、映画・映像、メディア、出版文化史はもとより、広く大衆文化研究に資するデータベースとなっている。

J-DAC「近代文学作家自筆資料集」に搭載し、他の近代文学作家の自筆資料との横断検索も可能。

J-DAC「近代文学作家自筆資料集」で横断検索が可能

オンライン版 二松学舎大学所蔵 横溝正史旧蔵資料　価格 ￥300,000（税別）

解題：山口直孝（二松学舎大学教授）
横溝正史（1902～1981）が残した膨大な自筆資料等を収録するデータベース。14,000枚を超える原稿・草稿、創作ノート・メモ、映画化された作品のシナリオ、本人が加筆修正を施した雑誌・単行本切り抜き等で構成された一大コレクションを横断的に利用できる。

オンライン版 虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集　価格 ￥300,000（税別）

虚子記念文学館所蔵の明治～戦前期までの資料を対象とし、高浜虚子、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、正岡子規、佐藤春夫など、日本の近代文学を牽引した60名以上の作家の自筆資料約450点を収録。

MARUZEN-YUSHODO　丸善雄松堂株式会社　学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部
〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル TEL.03-6367-6025 FAX.03-6367-6188 e-mail kenkyushien@maruzen.co.jp

2023.10.P.P.